

YCU 長期留学プログラム 派遣学生報告書

氏 名	KH	学部・学科	国際教養学部・国際教養学科
学 年	4 年	派遣国	イギリス・スコットランド
派遣大学	グラスゴー・カレドニアン大学		
期 間	2025 年 8 月 29 日～ 2026 年 6 月 5 日		

【生活編】

1. 滞在先

滞在形態	学内の学生寮 / 学外の学生寮 / アパート / その他 ()					
部屋	個室 / 2 人部屋 / 3 人部屋 / その他					
設備	*共同=◎ 部屋にあるもの=○					
	トイレ	◎	シャワー	◎	洗面所	○
	キッチン	◎	冷暖房	○	冷蔵庫	◎
滞在費	約 (11.5 万) 円 *1 ヶ月あたりの寮費や家賃					
移動	(徒歩) で、約 (3) 分 *大学までの所要時間と移動方法					

転居した場合は、上記表をコピーして滞在先 2 の内容を追加してください。

2. 日常生活

(1) 1 ヶ月の生活費

項 目	金 額	内 訳
食費	20,000 円	比較的低価格帯のスーパーLidl で買い物をしていました。
学用品購入費	0 円	
交通費	0 円	Young Scot card を作るとバス（高速バス・空港バスを含む）は無料
交際費	12,000 円	パブ代、クラブ入場料など
その他	135,000 円	寮費(11.5 万)、洗濯代、通信費、旅費など
合計	167,000 円	*概算で記録してください。

(2) 治安状況・危険地域など

日中は安全です。夜は 1 人で出歩くのは避けるべきですが、友達と一緒にであれば問題はありません。薬物のにおいのする場所（高架下や人気のないバス停）や、アルコール中毒のような人がいるため注意するに越したことはないと思います。

3. 海外旅行損害保険について

保険の名称	学研災付帯海学 / その他（ ）		
加入期間	（ 10 ）ヶ月間	保険料	（ 123,000 ）円

現地の国／大学指定の保険に加入した場合は、下記も記入してください。

保険の名称	Health Insurance (IHS)		
加入期間	（ 12 ）ヶ月間	保険料	（ 160,000 ）円

4. 滞在都市についての情報

滞在都市／町（ **グラスゴー** ）
 グラスゴーはスコットランド最大の都市で、首都エディンバラからバスで 1 時間半ほど離れています。最大の都市と言ってもとりわけ大きいという訳ではなく、全てがコンパクトにまとまっています。大学やカレッジが多いことから学生が多く活気のある街と同時に、節々から歴史を感じることもできる街です。メインストリートは石畳の歩行者天国で、ショッピングモールがあり、特に週末は賑わっています。中心部から少し歩くと、グラスゴー大学やグラスゴー大聖堂といった歴史的な建築に訪れることができます。これらを含めた美術館や博物館の入場料は無料です。パブやクラブといったナイトライフが非常に充実しており、幅広い年代の人が楽しんでいます。

【学業編】

1. 大学情報

大学	グラスゴー・カレドニアン大学	所在地	グラスゴー
最寄空港	グラスゴー国際空港	空港からの距離	14km
空港⇄大学	(空港バス * 到着日は留学先大学が提供するタクシーを利用できる) * 移動手段		
学生数	20,000	留学生数	30 人ほど
学部	Glasgow School for Business and Society School of Health and Life Sciences School of Science and Engineering GCU London *留学先大学の保有する学部をすべて記載してください。		
学部/専攻	Glasgow School for Business and Society, Social Science *留学中に所属した学部/専攻を記載してください。		

2. 週間スケジュール

① (9)月～(11)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	授業 2 コマ	復習	授業 2 コマ	予習	授業 1 コマ
午後	授業 1 コマ 部活	予習 部活	授業 1 コマ (部活 Social)	予習	授業 2 コマ

② (2)月～(4)月

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前	予習	予習	予習	授業 3 コマ	授業 1 コマ
午後	部活	部活	(部活 Social)	授業 3 コマ	授業 2 コマ

3. 履修内容

科目	The Making of the Contemporary World, 1914 to the Present Day		
履修期間	A trimester (9 月 – 12 月)	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(200 人)、1 コマセミナー(15 人) 1914 年以降の英米社会の変遷を学ぶ。アメリカパートではスペイン風邪、ベトナム戦争、公民権運動を、イギリスパートでは NHS(国民保健サービス)の導入政策や衛生観念を扱い、現代社会との繋がりを考察する。		
成績	P		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Poverty, Inequality and Policy		
履修期間	A trimester	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(40 人)、1 コマセミナー(10 人) 日常生活の中にある様々な格差や不平等、その原因を性別、人種、居住地域等の面から分析する。スコットランドの福祉政策がそれにどのように影響するか考察する。		
成績	P		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Hitler's War: The Third Reich, German Society and the Second World War		
履修期間	A trimester	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(20 人)、1 コマセミナー(10 人) ナチスドイツの外交政策、ユダヤ人の大量虐殺、東部戦線での敗北など、ナチスドイツの政治的、軍事的、社会的な政策とその結果を時系列で学ぶとともに、ソ連やバルト三国との関係も網羅する。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Lion versus Eagles: Britain, Germany, and the First World War 1914-1918		
履修期間	B trimester (1 月 - 5 月)	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(70 人)、1 コマセミナー(15 人) 第一次世界大戦が始まるまでのヨーロッパ情勢、独英の海戦、イギリスとドイツの労働者の権利の違い、スコットランドの軍事的機能、そしてドイツ革命に伴うドイツの敗北までについて時系列で学んだ。		
成績	P		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Crime Law and Society		
履修期間	B trimester	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(200 人)、1 コマセミナー(20 人) 犯罪学を扱い、被害者の分類やその背景を学んだ。また、スコットランドの刑法(犯罪の成立要件や殺人の種類など)を学んだ上でケーススタディを行った。		
成績	P		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

科目	Comparative Youth Crime and Justice		
履修期間	B trimester	単位数	10 ECTS
授業内容／形態	2 コマ講義(70 人)、1 コマセミナー(15 人) 「少年」の定義や、少年非行の特徴、事件の調査方法、スコットランドと他のイギリスの地域との違いを学んだ。また少年非行とイギリスサブカルチャーとの関連性も考察した。		
成績	F		
YCU 振替予定	科目		
	単位数		
	担当教員		

<総括>

(1) 全体的な感想 *留学生生活全体を通しての気づきや学びをまとめてください。(800 字以上)

10 か月間の交換留学を通し、人間的に多くの面から成長することができたと感じます。今回は言語、学習、人間関係の3つの視点から苦労と成長をまとめたいと思います。

第一に言語面です。スコットランドは特有の英語アクセントを持ち、英語力を向上させながらもユニークなスキルを獲得することができました。渡航前は日本のように年配の人が主にアクセントや訛りを用いて話すのかなと思っていましたが、実際には年齢関係なく使用されています。留学初期はアクセントの強い人の話を全く理解できないこともあり、授業中の大人数グループディスカッションでは苦戦しました。そこで先生方に相談し、少人数のグループにしたり事前にディスカッション内容を教えてもらったりするようお願いしました。自分の意見を組み立ててから授業に参加でき、かつ少人数だと質問がしやすいため、議論の理解度を上げながら積極的に発言をすることができるようになりました。授業外ではフラットメイトや部活のメンバーなど現地学生と触れ合う機会を多く設けることで、アクセントを耳から吸収し自分も発音できるよう練習しました。外国へ旅行した際に私の話し方からスコットランドに滞在していると推測されてしまうほどアクセントを習得できたようで、この地ならではの特性を身に付ける努力をすることができて嬉しく思います。

次に学習面です。各授業は2コマ講義と1コマセミナーから構成されており、講義は一方的ですが、セミナーは日本でいうゼミのような生徒同士のディスカッションがメインで、講義で学んだ内容と予習をもとに自分の意見を作ってからセミナーに望むことが必須でした。予習は事前に指定された文献やビデオを視聴するという課題もあれば、自分で論文を探して情報を探する場合もありました。予習量がセミナーでの発言量や理解度に直結するため、毎回多くの時間を予習に費やしました。留学前はリーディングに苦手意識がありましたが、予習を重ねるうちに必要な部分を早く探し早く読めるようになり、学術論文を読むことに対する抵抗が大幅に減少したと感じます。期末試験は個人ワーク1つ(エッセイ)、団体ワーク1つ(プレゼン)で構成されることが多く、大体3週間から1か月ほど試験期間があります。成績は全て期末試験をもとにつけられるため、各授業への準備に力を入れていた私はアカデミックバーンアウトのようなものを経験しました。また勉強と天気は密接に関わっており、特に秋冬の試験期間は日照時間が短いことからくる精神的な不安定により集中することがとても難しかったです。冬季うつにならないためにビタミンDを摂取したり運動したりするなどの対策は取っていたものの、実際には想像より多くの負担を感じました。初めての環境や季節で身体が慣れずにストレスを感じていたため、早くから先生や大学のスタッフに相談していれば良かったのにと後悔しています。学術的なスキルを獲得でき喜ばしく思うと共に、分からないことや助けが必要なことに関して素直になることの大切さを学びました。

交換留学を振り返って最も良かったなと思うことは、心から友達と呼べる友達ができたとだと思います。留学初期は他の交換留学生と時間を過ごすことが多く、文化の違いについてや新天地で何を感じるかについてよく話していました。フラット外で過ごす時間が長くなるほどフラットメイトとあまり関係を構築できていなかったことに気付き、留学中盤からはフラットにより馴染めるよう努力するようになりました。スコットランド人のフラットメイトの中には歯に衣着せぬ物言いをする人がいて初めは困惑しましたが、「嫌なことは嫌とはっきり示していいんだよ」と言われたのが自身の意思表示の仕方を見直すきっかけとなり、他人に配慮しながらも自分に正直に生きることができるようになりました。私たちのフラットは、ハロウィンやクリスマスといった季節のイベントを開いたり、パブやクラブに出かけたり、毎週カラオケをしたりと、自分たちでしたいことを提案し実行する能力があったと思います。私は 2 月に恵方巻ワークショップを開催しました。しかし全てが順調だった訳ではなく、黒人差別や LGBTQ 差別の観点からぎくしゃくした時期もありました。善悪を越えて、なぜそれが悪なのか、なぜ個人はその言動をしたのか、それが周りにどのような影響を及ぼすかなど、とことん時間をかけて話し合いました。意見の衝突を恐れずに各個人が考えを話し、反論はしても否定はしない環境があって良かったと思います。喜怒哀楽全ての感情を味わったフラットメイトとの時間は過ぎるのが惜しく、このフラットで毎日を過ごせたことに感謝しています。

(2) 今後の展望 *この経験を今後どのように活かしていきたいかをまとめてください。(400 字以上)

留学の経験を今後は就職活動の面で活かしていきたいと考えています。現在はグローバルな取引に広く携わることのできる商社を中心に就職活動を行っています。留学を通して培った英語力を今後も維持・向上させ、ビジネスの場面で発揮できるように努めたいと思います。また、異文化コミュニケーション力や、調整力、自らの意見を明確に伝える自己主張力といった面で、自身がどのように変化したかを言語化することで客観的に捉え直したいです。

また、留学を通して日本の歴史や文化を深く学びたいと思うようになりました。それは、自分にとっての当たり前を言語化し、バックグラウンドの異なる相手に論理的に説明する難しさを実感したからです。「空気を読むってどういうこと？」と聞かれた際に、私にとっては当然の感覚だったため、具体例を挙げて分かりやすく上手く説明することができませんでした。また、「日本の間接的なコミュニケーションより欧米的な直接的なコミュニケーションを取った方が正直で良くない？」と指摘された時には、日本の察する文化の持つ配慮や価値を言い返せず、もどかしい思いをしました。日本人同士であれば「それ」や「あれ」といった代名詞でも意図が通じるけれど、異なるバックグラウンドの人とは、概念的な物事ほど細かく噛み砕いて説明することが必要であると学びました。この経験から、日本人としての観念や自国の文化をより深く知りたいと思うとともに、感覚を言語化する能力を身に着けたいと考えます。留学生会に所属しているため、留学生に対して日本の文化やコミュニケーションの特徴の説明をすることで、日本社会を理解したり日本人と交流するサポートをしたりすることができれば良いと思っています。

(3) 後輩へのアドバイス *留学を希望する学生にむけてのアドバイスをお願いします。(400 字以上)

留学中はとにかく積極性が必要だと考えます。やりたいことを実現するにも、困っていて周りに助けを求めるにも、自ら行動しなければ自然にはチャンスは巡ってきません。日本では察する文化がありますが、留学中は「こんなにも空気読めない人が存在するのだ」と困惑してしまうような人にも出会いました。自分の考えや気持ちを言語化し、明確に伝えるよう意識すると良いと思います。

グラスゴーアクセントがとても強く、授業内のディスカッションで苦労しました。インターネットでグラスゴーアクセントと検索して動画を見て、少しでも耳を慣らしてから渡航すると授業をスムーズに受け始めることができると思います。また渡航後に難しいと感じる場合、学期はじめに先生にそれを伝えておくとう融通をきかせてくれたり助けを差し伸べてくれたりする場合があります。

フラット外で現地学生と仲良くなりたい場合、部活に入ることを強くお勧めします。私はダンス部に所属し、週2回練習、週1回 Social の活動を行いました。1年を通して同じメンバーと練習を重ねるため、最初上手くコミュニケーションが取れないと悔しい思いをしたとしても、試行錯誤しながら成長するまでの全ての過程を経験することができます。人との付き合いという面で一番大変であり、一番成長できた場所だと振り返ります。